

# 奇せきのお米

上野小学校 6年 川崎風

「おはよう。」

毎日目を覚まし、キッチンに行くと、今日も土曜日からおいしそうなたき立てのご飯の香りがしてくる。私はふっくらおいしくたけだご飯とみそ汁を食べて学校に行く。学校の給食でも、美味しい白いご飯がたくさん食べられる。私はカレーが出た時、思わずお代わりまでしてしまふ。去年まで、こんな風に毎日白いご飯をたくさん食べられることは、当たり前のことだと思っていた。

私の学校では、五年生になると春に田植えをしてお米を育てる。どろまみれになりながら田植えをし、暑さにも負けずに草取りをして、クラスみんなでいねを大切に育てていた。しかし、長い夏休みが終わり、いよいよ収穫だ！と楽しみにして登校すると、そこには変わり果てた光景が広がっていて、思わず「え」と声が出てしまった。動物が入らないように

しっかりさくを作って対さくをしていたはず  
なのに、せつかく突った稲穂を食やられてし  
まった。どうやら、鹿やイノシシ、キョンが  
稲穂を食べてしまったようであった。悔しく  
て悔しくて、クラスのみんながせつかくの新  
学期の始まりなのに落ちこんだことを、今で  
もはっさりと覚えていいる。このことから、私  
たちのクラスでは、有害鳥いっやについて、  
地元で有害鳥いっやのく除やジビエを使った  
活動をしている方を講師に呼んで、学ぶことと

した。私たちは自分達が育てた作物を食べて  
しまり動物のことを「有害」と言うが、動物  
から食や物をりばってしまったのは人間であ  
る。しかし、一方的に動物を悪者として命を  
りばってしまったのはどうなのだろうか。どう  
したら、人も動物もおたがいが暮しやすくな  
るのだろうか。人と動物はどのような共存す  
べきなのか、私は考えさせられた。

このように、私はお米作りの大変さを、身  
をもちて学ぶことになった。私たちは動物に

食べられこしきという経験であつたが、お米作りは天候にも左右される。先日東北で大雨が降り、洪水になつていたことから、きつとつらく、悔しい思いをしている農家の方もいるだろう。逆に水がなくても稲は育つことができない。無事に大きく育ち、稲刈りまでたどりつくということは、奇せきなのかもしれない、と思つた。このよりに考えてみると、今ではお米を大切に育ててくれた農家さんに感謝しながら毎日食べている。私がまた

小さかつた時、お米には一つづつに神様がこいるよ、と稲本で読んだことがある。こ水からも一つづつも残すことなく、神様に感謝しながら、私はこれからもかくらと炊けた美味いご飯を口いっぱいほお張り、もぐもぐ食べを噛しめながら今日もお腹いっぱい食でたい。そして、いつか私の夢でもある料理研究家になり、もっとも美味しいご飯の炊き方を研究して、多くの人に私の作った美味しいごはんを食べてもらいたい。